

神の他に誰（何）が存在する？——D・ウィルコックの偉大な返答

Greatchain
2020/04/06

私のこのブログ（真実を知りたくないですか？）には、「あなたは1年（2年、3年）前にこんなことを書いています」と、指摘してくださる有難い方がいて、私自身が忘れていたことを思い出させてくださることがある。「神学や宗教の概念が全く変わってきた——D・ウィルコック講義」（19/04/04）も、そんな記事だった。

現在、コロナウィルスが世界的に猛威を振るっている。いつこれが終息するかわからない。しかし、これがすっかり終息したとき、「やれやれよかって、これですっかり元通りの世界が戻ってきた」と喜んではいけない。それは喜ぶべきことではなく、我々の世界はそのとき、すっかり変わっていなければならない——。私がそう言うと、話しに来ていた私の旧友は、完全に同意してくれた。きっと他にも、同意してくれる人たちがいると私は確信する。もちろんこれはかなりの苦痛を伴うことであり、どう変わるべきかもわからない。しかし変わらなければならない。

デイヴィッド・ウィルコックがこのところ、ぶっつけ本番で、驚異的に長時間、語り続けていることを知っている人は何人かおられると思う。その講義の一つに、Tim Ray というパーソナリティとの“Disclosure: Alien Agenda——David Wilcock”という対話があり、ティムは「全く基本的な質問だが」と断ってこう訊ねる、「あなたは、より高い力 (higher power) とか神とかよく言われるが、そういうものは存在するのか？」一瞬、無然として、ウィルコックは答える——「他に誰が（何が）存在する？」

こういう返答を「偉大な返答」 great reply と呼ぶ。リンカーンが自分の靴を磨いているのを見とがめて、側近が言った。「大統領が自分の靴を磨くものではありませんよ。」するとリンカーンは言った。「では大統領は誰の靴を磨くのだ？」また別の話として——数人の男がイエスのところへ、一人の女を連れてやってきて、言った。「先生、これは姦淫の罪を犯した女で、法律では、これは石打の刑で殺すことになっています。どうしますか？」するとイエスは言った。「では、君たちの中で罪を犯したことの無い者、まず石を投げよ。」

これとウィルコックの返事とは少し違う。彼は単なる信念や信仰の厚さで発言しているのではない、彼は哲学者・科学者として発言している。しかし、読者はこの返答によって不意を突かれ、今まで見えなかったものを瞬時に見るだろう。「神が存在するかって？ 何を言っている、あなた自身が神ではないか。その他に誰(何)がいる？ There is nothing else.」我々は、神の存在については聞かされていた。しかし、神の構造については聞いたことがなかった。

彼は私自身の訳したものを繰り返せば、こう言っている：――

それは究極的に一つの心であり、あなたの心であり、あなたはこの無限のインテリジェンスに近づいていくのだ。なぜなら、それがあなたで、彼らはあの高い領域にいて、あなたを離れた存在として見るができないのだ。それは幻想というもので、幻想とは、我々が隔離したアイデンティティをもっているものとして、考えるものだ。なぜそういうこと(一体化)が起こるのか？ それが起こるのは、無限が自分自身を経験できるようにするためだ。宇宙は一方では、生成の過程にあるということもできるが、また宇宙はすでに起こっている、が、一方で、宇宙は絶えず目覚めつつある、ということもできる。そして「一者の法」もまた、我々はすべて、あのワンネスの中へと帰りつつあると説明している。そして彼らもまた、重力は愛の原理だと言っている。重力とは何であるかを考えてみるとよい。重力とは互いに引き合う、そして引き付ける傾向のことだ。宇宙のすべての対象が引き付け合う力が重力だ。重力とは、宇宙が自分自身を一つに、強固にしようとし、したがって究極的に、全体的な宇宙の目に見える構造である。・・・

「インテリジェント・デザイン」と呼ばれる宇宙的覚醒運動もそのようなものである。これは、あまりにも宇宙のすべてが、一つになろうとすることを明らかにするものなので、この真実をまともに知った者は、呆然とするほどであることを、科学者たちは証言している。それはまず、「宇宙的微調整」Cosmic Fine-Tuning と呼ばれる「奇跡的」事実に見れている。それは、「重力」を初めとして、宇宙のあらゆる決まった数値や性質が、そもそもの初めから、目的論的に組み上がったものとして、その数値や性質がごくわずかに異なっても、この宇宙や我々自体が成り立たなくなるものであることを、指摘するものである。(ウィルコック＝「一者の法」もほとんど同じことを言っている。)

しかし驚くべきことは、このような絶対的な宇宙的事実を、明らかにし、啓蒙しようとする運動を、難癖をつけて妨害しようとする者たちがいることである。何か知られてならぬものがあり、我々が目を覚まし、真実が現れることを必死に妨げようとする、大きな悪の実体が、この惑星に働いていると考えなければならない。彼らは暗黒のアジェンダをもつ者として、ウィルコックの教えるように、驚くべきサタンの勢力として行動している。そ

のような氷のような者の偽装が、突如として融け、真実が現れたとき、人は、少し敏感な人ならば、まさしく感泣するであろう。ID運動にまつわるそのようなエピソードは、特筆すべきである。<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/191218-2.pdf>

私たちはこの宇宙的「ワンネス」を示す、『意味に満ちた宇宙』(A Meaningful World) という本を共訳したことがある。これは主として化学の発達の歴史(周期表によって化学が完成する、導かれた道のりの話)を論じたものだが、その中心には、アインシュタインの「この宇宙で最も理解できないことは、それが理解できることだ」という、逆説的な言葉がある。これは、人間によって学問的発見が、可能なように、しかもその知能の発達に合わせて、都合よく起こっているという、不思議な事実を述べたものである。簡単に言えば、「あなたと神は共謀し、一つになって生きている——他にどんな生き方があるというのか?」ということになる。

人はこの事実に目覚めたとき、世界は180度、転換するはずだと思われる。なぜなら、現在、我々が生きている世界は、ほとんど、この「神」を「サタン」に切り替えた世界だからである。よく考えてみていただきたい。我々は騙されて生きている。コロナウィルス終息の条件には、例えば、この迷妄への目覚めがなければならぬと思う。それが起こらない限り、コロナは、手を変え品を変えて、いつまでも起こり続けるのではないかと思う。

——以上